

INFORMATION

公開同朋会

7月12日(第二土曜日)

13:00~勤行

13:20~法話

14:00~SONO エレクトーン演奏

14:40~茶話会

少し先の話になりますが、7月の公開同朋会では3年連続 SONOさんのエレクトーン演奏を披露していただくことになりました。一台の楽器から荘厳な音楽が奏でられ、本堂いっぱい音楽が広がります。ぜひお楽しみに!

今月のことば



浄土真宗の僧侶で九州大谷短期大学の学長をされた蓬茨祖運さんの言葉です。苦しみを活かすのではなくて生かしていく。苦しみを嫌い、排除するのではなく、自分の中に苦しみの居場所をつくってあげられるのではないか。そんな風に聞こえてきます。

境内の花々



ヒトツバタゴ

五月同朋会より

住職法話「五劫思惟之摂受 重誓名声聞十方」(正信偈より)
五劫思惟阿弥陀仏、と言われる阿弥陀像があります。髪の毛がアフロヘアのように伸びた様子を表した仏像です。「劫」というのは時間の単位。一劫は大きな岩が天女の羽衣で二〇〇年に一回こすられ、その岩が全部亡くなるまでの時間だそうです。五劫はその五倍。つまり、とても長く長い時間、阿弥陀様が私たち衆生を救う方法を考えたということです。そして重ねて誓いを立てられた。阿弥陀仏は「もし皆が救われないなら私は仏にならない」と言っています。その阿弥陀仏が仏になったということは、すでに私たち衆生は救われている、ということ。阿弥陀を呼ぶ声、「南無阿弥陀仏」が四方八方に上下を足した十方すべての方向から聞こえるということは、皆が救われているということだと。

前住職法話「信心とは」(歎異抄第二章より)

親鸞聖人が京都へ戻られた後、関東の弟子たちは遠路はるばる「信心とはなにか」を尋ねに親鸞上人の元を訪れます。信心とは神様を信じて願いを聞いてもらうことだと思っている人たちには親鸞聖人のお念仏の教えというのとはとても伝わりにくい。いくら「南無阿弥陀仏」と言っても変化がないから物足りない。「南無阿弥陀仏」とは阿弥陀仏に南無せよ、阿弥陀仏の願いを受け止めて欲しい、苦しみや悩みから逃げないで受けとめて生きていく世界が浄土であるという教え。決して逃れたい、助けてくださいい神様仏様、という世界ではないのです。

六月同朋会(第二土曜日)

六月十四日

時 午後一時から三時半

内容 勤行・法話・茶話会

お茶代 500円

どなたでもご参加できます。

ぼうもりのひとりごと

仙台市博物館の学芸員さんからお話をうかがいました。仏教美術が専門というその方は、仏像や絵像、掛け軸などを単なる美術品として扱うのではなく、先人達の信仰の対象に畏敬の念を持っておられることがお話しから伝わってきて、理解をしてもらっていることに安心を感じました。